

研究タイトル：

会計基準の国際的統合化とその経済的影響



氏名：	田川 晋也 / TAGAWA Shinya	E-mail：	tagawa@ube-k.ac.jp
職名：	准教授	学位：	修士(経済学)
所属学会・協会：	日本会計研究学会, 日本簿記学会, 国際会計研究学会, 日本 IR 学会		
キーワード：	国際会計, IFRS		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記教育 ・企業データ分析 		

研究内容：

会計基準の国際的統合化とその経済的影響

従来それぞれの国によって異なっていた会計基準を、国際財務報告基準(以下、IFRS)に統合化していこうという流れがある。その流れは、2002年に国際会計基準審議会(以下、IASB と称す)とアメリカの財務会計基準審議会(以下、FASB と称す)がノーウォークでの共同会議において、将来、国際会計基準とアメリカの会計基準の統合化を推進していく合意がなされたことで始まった。日本においても、2007 年にいわゆる「東京合意」で国際会計基準と日本の会計基準との差異を解消していく方向性が示された。

田川研究室では、この会計基準の国際的統合化が、日本の企業や経済にどのような影響を与えるのかについて、研究している。

研究室では、企業の業績を表示するための会計が統一されることによるメリット、デメリットを議論する場合もあれば、会計基準の統合化に向かう各国の動向について議論する場合があります。また、新たに提案された基準が導入された場合に、どのような影響があるかを統計的に検証する場合もある。

特に力点を置いているのは、昔の会計制度の枠組みと現在の会計制度の枠組みおよび現在各会計基準設定団体で提案されている基準が、同じものなのか、違うものなのか、また制度の進歩としてとらえるべきなのか、異なる制度の導入としてとらえるべきなのか、について理論的に追求することである。

これまでの研究では、リース会計基準、退職給付会計基準、金融商品会計基準などの個別の会計基準を検討している。今後は、実際の財務データを用いて、会計基準の変容が、どのような経済的影響を与えているか、その影響を企業が受容するのか回避するのかがいいのかについて検討していく。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	